

水素で、
もっと
楽しもう！

郡山観光交通株式会社「水素タクシーの運行と水素キッチンカーを活用した脱炭素社会への理解醸成」

- 福島県内で水素燃料電池自動車（Fuel Cell Vehicle。以下、「FCV」という。）のタクシーを初めて導入し、令和4年2月には、東京2020オリンピック・パラリンピックに使用されたFCV4台を増車するなど脱炭素社会に向けた水素関連事業に対して積極的な経営を実施している。この取組により、CO2排出削減量は約32,991kg-CO2/年（LPG車両5台分として算出）と推計され、環境負荷軽減へ貢献している。
- 浪江町水素事業者等連絡会や郡山市水素利活用推進研究会などの産・学・官が連携する取組に参画し、FCVのキッチンカー等の技術開発に貢献している。
- 国内・国外に発信する水素関連のイベント受託や、水素関連施設等のコースを巡る「水素ツーリズム®」の実施、県内小中高校向けの「水素環境授業」など、積極的に水素関連事業の啓蒙活動を実施している。

【FCVタクシー】



【グリーン経営】

FCVが営業車全体の約10%を占めるなど、積極的な投資をしている。今後もFCVを増車し、所有車両の比率をさらに高めていく予定。

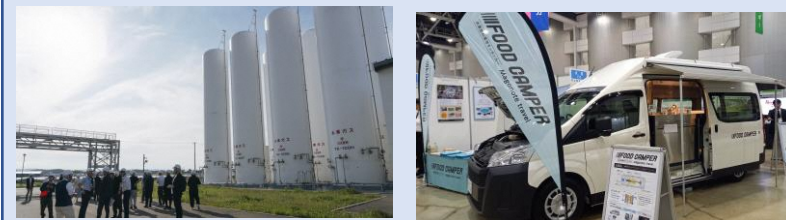
【FCVキッチンカー】



【産学官連携】

福島県とトヨタ自動車株式会社が進める「福島での未来のまちづくりに向けた水素の社会実装」において、パートナー企業としてFCVによるキッチンカーの開発について協力している。

【脱炭素社会実現に向けた啓蒙活動】



【理解醸成啓蒙活動】

環境イベント（特に水素）への積極的出展や教育機関での水素出前講座活動などによる脱炭素社会の実現に向けた理解醸成・啓蒙活動を行っている。また、水素ツーリズム®を活用した交流・関係人口の創出に取り組んでいる

○取組の背景・目的

2011年に起きた東日本大震災と原発事故の影響で、福島への食の安全についての信頼が失われる。この状況を打破したい一心で始めたアウトドアレストラン事業「FoodCamp®」が後に水素関連事業に係わる大きな要因となる。2021年3月5日浪江町FH2R視察におけるトヨタ自動車豊田章男車長と福島県内堀知事との対話から始まる「福島県における水素まちづくり」2022年7月15日、福島県とトヨタ自動車において「福島での未来のまちづくりに向けた水素の社会実装」概要が発表され、その中の「マルチパーパス事業」において、キッチンカーにおけるFCEVの活用促進を目指し、互いの知見を盛り込み、今回、トヨタ自動車と郡山観光交通・孫の手トラベルが連携して取り組む実証実験車両として「FCEVキッチンカー」が完成した。同時期に福島県内で水素燃料電池自動車（Fuel Cell Vehicle。以下、「FCV」という。）のタクシーを初めて導入し、令和4年2月には、東京2020オリンピック・パラリンピックに使用されたFCV4台を増車するなど脱炭素社会に向けた水素関連事業に対して積極的な経営を始める。弊社は水素を使う側の企業ですが、その水素エネルギーを活用した新たな街づくりや脱炭素社会への理解を広く広めるための啓蒙活動を中心に行っています。

○具体的な内容

- ・一般乗用旅客自動車運送事業によるFCVタクシーの運行
- ・FCVキッチンカーを活用したアウトドアレストラン「FoodCamp®」による環境配慮に対する啓蒙活動
- ・環境イベント出展及び学校へ出張出前講座等による脱炭素社会への理解醸成活動
- ・水素ツーリズム®実施による啓蒙活動と交流及び関係人口の創出

○取組・活動の独創性、先進性、継続性、他の事業者への波及性などのPRポイント

- ・県内初のFCVタクシー導入、全世界で一台しかないFCVキッチンカー開発への協力と運用。この2種類の車両を活用して水素関連施設等を巡る水素ツーリズム®を実施、企業間連携の橋渡し等にも寄与している。アウトドアレストラン「FoodCamp®」を実施するなど、地域を巻き込んだエコツーリズムを実施している。環境省の令和2年度脱炭素・資源循環「まち・暮らし創生」F S委託事業「浪江町における水素観光事業等に関わるF S調査」及び令和3年度「脱炭素×復興まちづくり」F S委託事業「浪江町における脱炭素ツーリズムに関わる実現可能性調査」に共同事業実施者として参画し、水素生産事業者、小売事業者等の異業種事業者とも連携し、次世代エネルギーである水素の地産地消、啓蒙に積極的に取り組んでいる。

○今後の計画や展望

- ・水素タクシー、ハイヤーを活用した個人型周遊観光プランの造成・販売による脱炭素への理解醸成を加速させる
- ・水素ツーリズム®による企業、団体、教育旅行誘致による交流及び関係人口の増加を図る
- ・水素調理の導入による二酸化炭素排出抑制の拡充を目指す

○取組・活動による地球温暖化対策としての効果

FCVの走行は水蒸気のみが排出されるため、旅客運送によるCO2排出量はほぼゼロとなる。CO2排出削減量：約32,991kg-CO2/年（LPG車両5台分として算出）

※算出根拠（計算式）

1台あたりの年間平均走行距離（18,807km）/平均燃費（4.76km/l）×LPGのCO2排出係数（1.67）×台数（5台）

FCVタクシーハイヤー運行



環境イベント出展



環境学習出前講座



水素ツーリズム®



FoodCamp®

